

西豪州ウェイトシアガス田ステージ2開発 最終投資決断について



mitsui & co.

2020年12月23日
三井物産株式会社

AWE買収後の進捗

[AWE買収]

- ✓ 三井物産は2018年に豪州石油ガス資源開発会社AWEを買収。
買収目的は以下2点。
 - 石油・ガス上流事業でのオペレーター機能獲得
 - ウェイトシアガス田をはじめとした豪州国内の優良原油・ガス資産ポートフォリオの拡充

[AWE買収後の進捗]

- ✓ AWEとMitsui E&P Australia (MEPAU) の統合を進め、オペレーター機能を順調に獲得・拡大。
 - ウェイトシアガス田ステージ1（小規模生産プロジェクト）の生産量を拡大（日量10TJ→日量20TJ）
 - 探鉱活動を通じウェイトシアガス田とバハラスプリングスガス田の埋蔵量を拡大（777Bcf→1,111Bcf）
- ✓ ウェイトシアの大規模開発を通じて既存優良ガス資産の価値を最大化

ウェイトシアガス田ステージ2開発概要

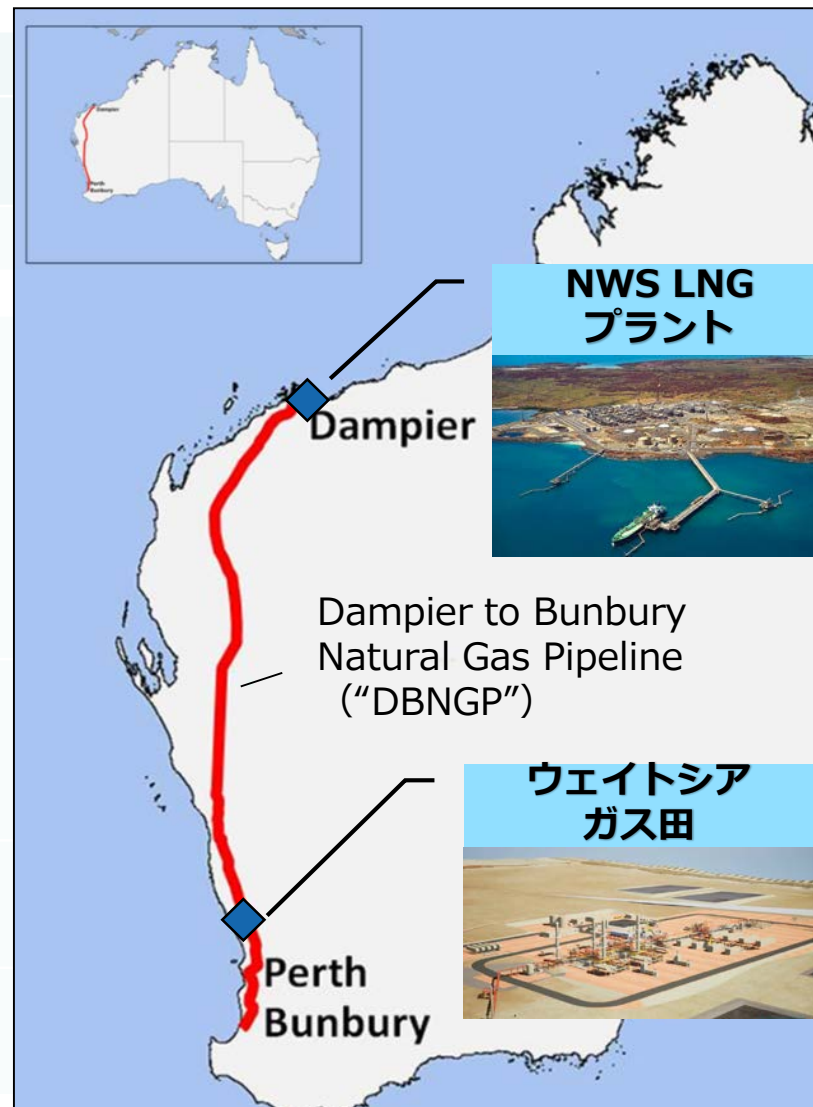
ウェイトシアガス田概要

所在地	西豪州 パース 北方約350km
推定可採埋蔵量	1,111Bcf (ウェイトシアガス田・バハラスプリングスガス田*合計)
権益保有者	AWE 50%, Beach Energy 50%

ウェイトシアガス田ステージ2開発概要

ガス開発計画	✓ 追加生産井・探鉱井の掘削 ✓ ガス処理施設の建設(日量250TJの処理能力) ✓ 開発費用: 7.68億豪ドル(約593 億円) (当社持分3.84億豪ドル (約297億円)) ✓ 生産開始: 2023年後半
ガス輸送	✓ DBNGP所有者のAGIGとガス輸送契約を締結 ✓ ウェイトシアよりノースウェストシェルフ (“NWS”) LNGプラントへガスを輸送
LNG輸出	✓ NWS JVとガス処理契約を締結 ✓ NWSのLNGプラントよりガスを輸出
ガス販売	✓ LNGをアジア市場へ販売 ✓ 西豪州の製造業・消費者向けにガス販売を継続

*バハラスプリングスガス田: ウェイトシア近郊のガス田。
権益保有者・比率はウェイトシアと同一。



ウェイトシアガス田ステージ2開発の戦略的意義

当社E&P事業が “Value over Volume”を追求する中、事業主体として独自のバリュー発揮ができる戦略性の高いプロジェクト。

E&P事業戦略「Value over Volume」

- 脱炭素社会に向かいEnergy Transitionが進む中、量より質を追求。Dual Challengeのニーズに応えるべく、当社らしい独自の価値創造ができる事業を主体的に展開する。

ウェイトシア事業の戦略的意義:

- オペレーターとしてガスバリューチェーンを構築することにより、国内最大級のウェイトシアガス田の価値を高めて商業化。（既存インフラ活用、アジア LNG市場への販売、西豪州国内市場への安定供給）
- 埋蔵量拡充からカーボンマネジメント事業（CCS・排出権等）に至るまで、E&P機能と当社総合力の発揮による様々な広がりを目指す。

気候変動への取り組み

当社の2050年「あり姿」Net-zero emissionsの実現に向けて、天然ガス開発と温室効果ガス排出量抑制を両立する。

ガス供給を通じて世界の環境負荷低減に貢献

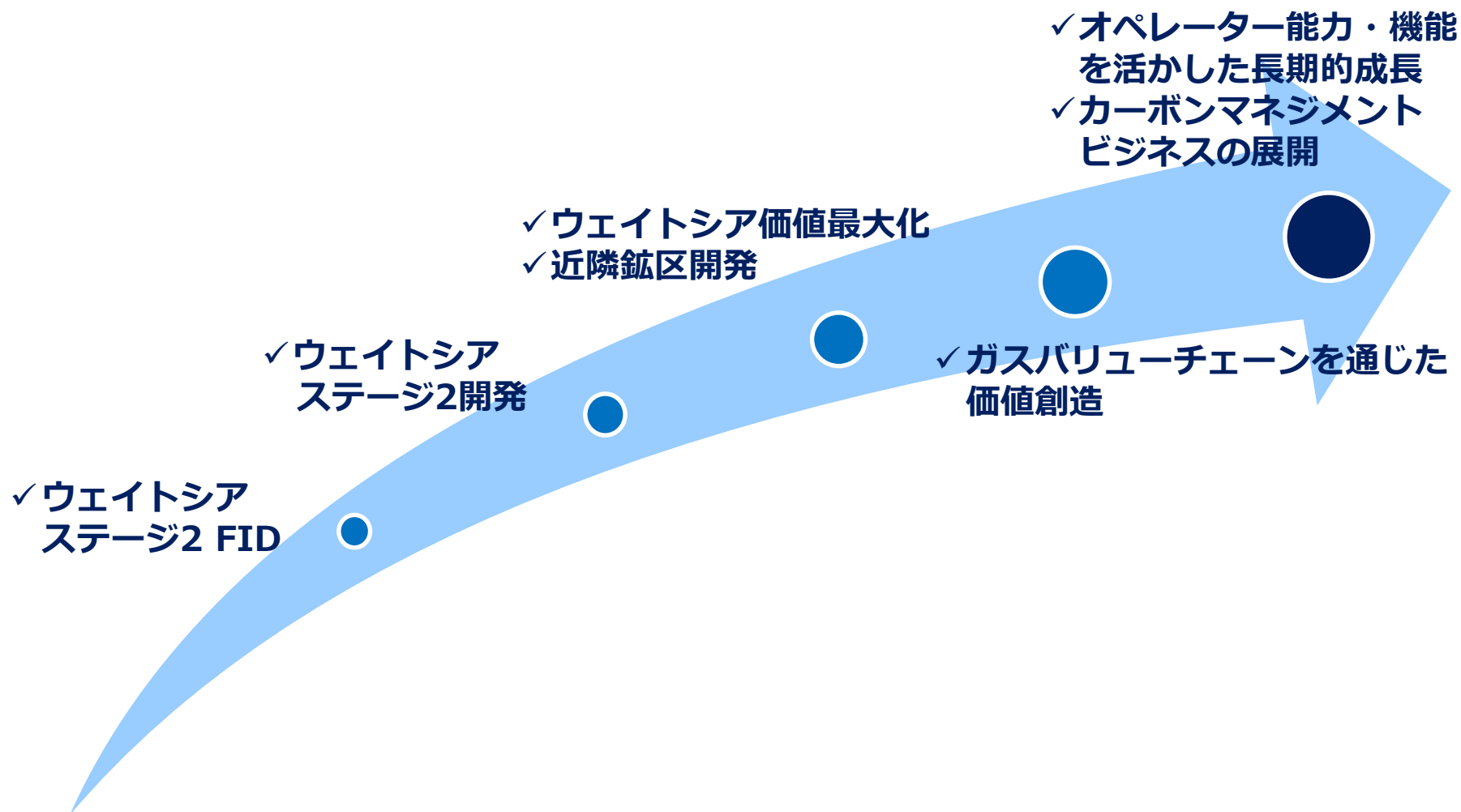
- ✓ 中期的に天然ガスへの燃料転換を促進し、低炭素社会の実現に貢献。

プロジェクトからの温室効果ガス排出量の削減

- ✓ 高効率なプラント設計を採用することにより排出量を抑制。
- ✓ 西豪州政府の温室効果ガスポリシーに沿って、プロジェクト期間に亘り、原料ガスに含まれるCO₂を除去することによる排出量(*)を削減またはオフセット。

(*) プロジェクトからの温室効果ガス総排出量の約60%と計算

オペレーター事業方針

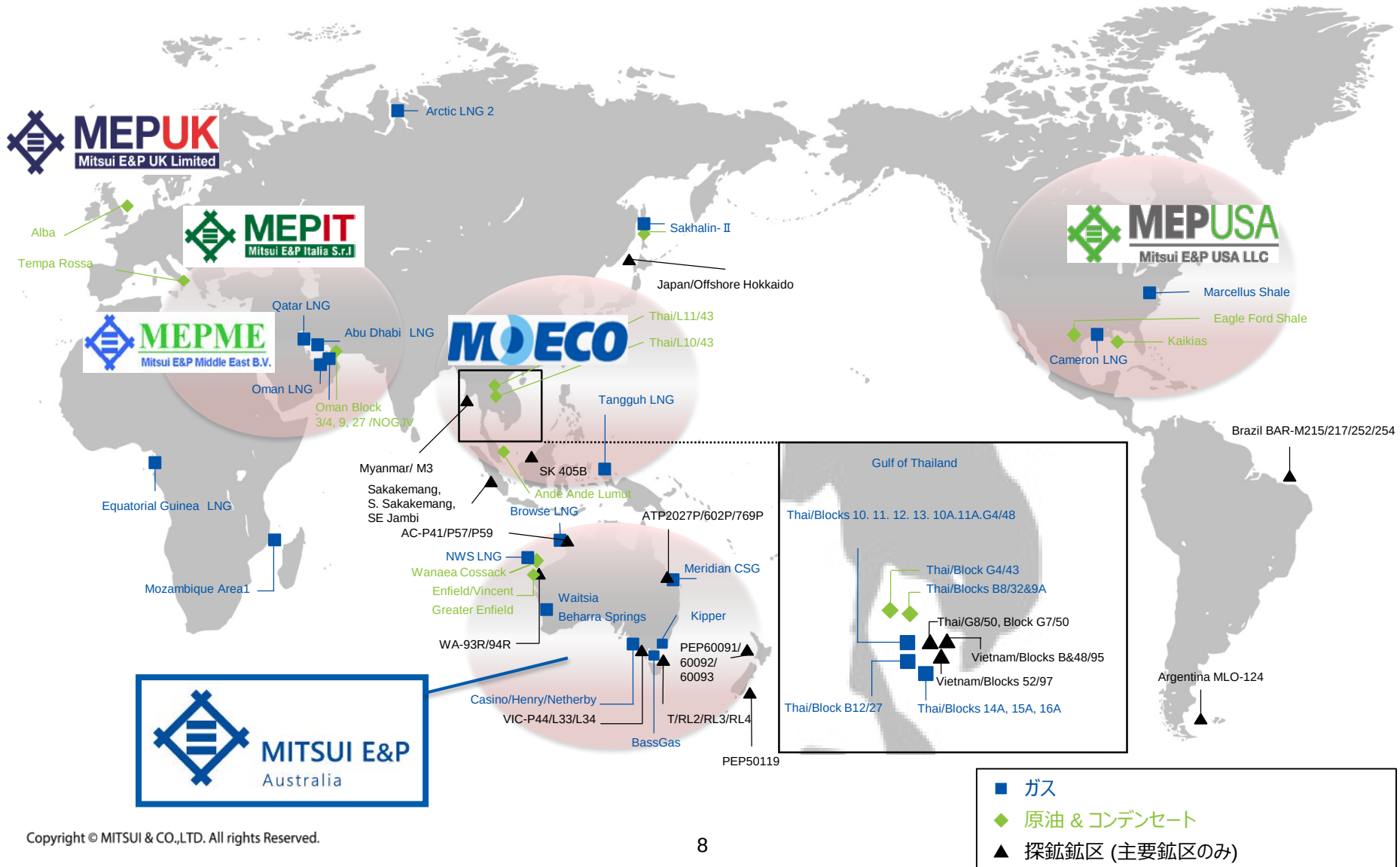


添付資料

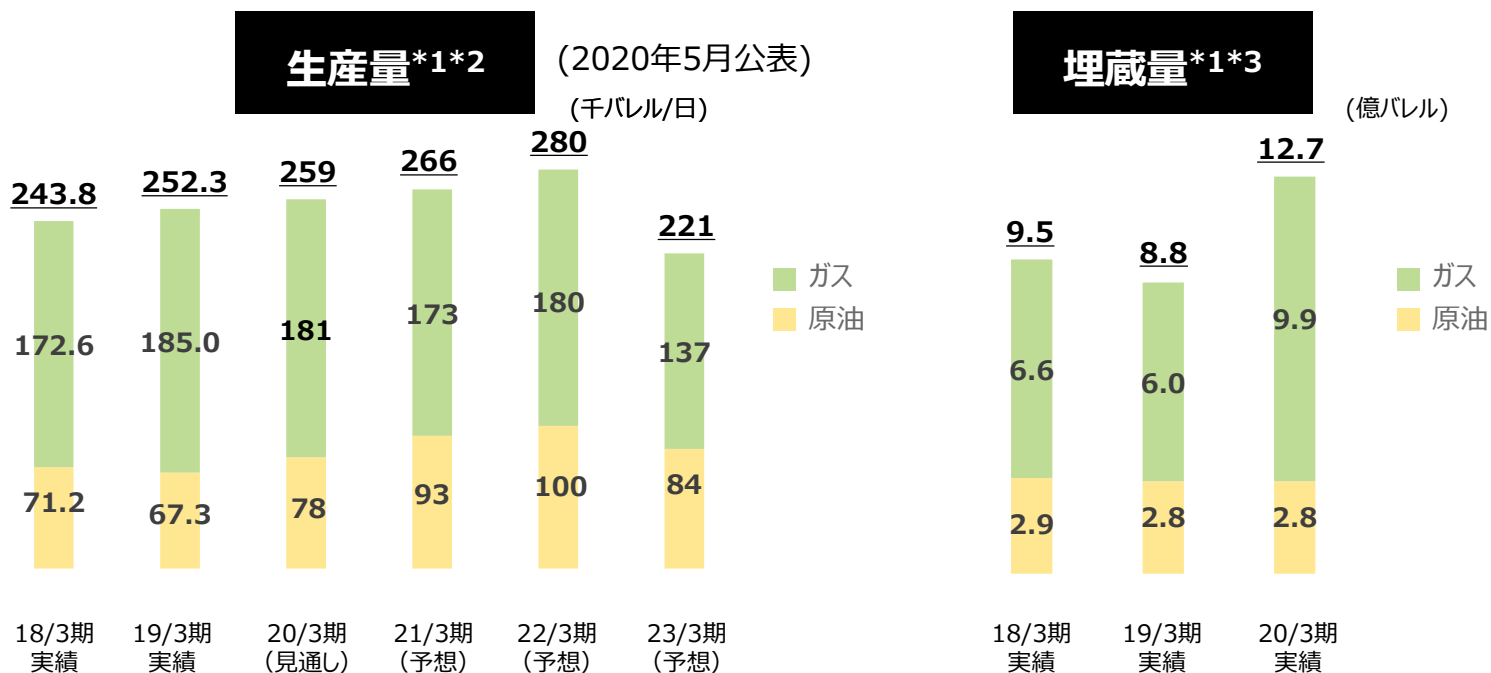
三井物産E&P/LNG 事業ポートフォリオ



(As of Dec, 2020)



三井物産/原油ガス持分権益生産量・埋蔵量



*1. 石油換算
当社連結子会社・関係会社・非連結先の当社権益保有見合い

*2. 一部プロジェクトでは当社持分販売量を適用
(予想) に関しては、新型コロナウイルス影響を一部加味していない前提

*3. 当社独自の基準による

360° business innovation.



MITSUI & CO.